令和六年十月号
《第一四二号》

しろへび

宗教法人岩國白蛇神社
〒740-0017
今津町六丁目４－２
☎ 30－3333

神無月（かんなづき）の祭典・行事案内

【月次祭】 九時半
八日（火）
二十日（日）

【マウス供養祭】
十二日（土）
※ 保存会主催

【神宮神嘗奉祝祭】
十七日（木）九時半

【昭和天皇御製】〈第一二四代〉
「皇居内の勤労奉仕者」
戦にやぶれし後の今もなほ
民のよりきてここに草とる
（昭和二十一年）

神嘗祭（かんなめさい）とは、伊勢の神宮で行はれる最も重要な祭祀で、内宮の天照大御神に今年収穫された初穂を捧げる皇祖奉斎の祭典です。当日は宮中でも神宮遥拝が行はれ、皇居の宮中三殿の賢所において天皇陛下御自ら祭祀に携はれる親祭の儀が斎行されます。全国の神社においても、この神宮神嘗祭を奉祝する祭典が執行されてゐます。

【推薦図書】

『日本人の歴史哲学』 産経セレクト
～なぜ彼らは立ち上がったのか～
岩田 温 著 一千百円

「・・・。日本に生まれ、日本に育ち、やがて日本の土となる我々に、最も重要な存在が日本である。すなわち祖国なのである。私は排外主義者ではない。祖国を想う気持は各国共通だろう。それでもなお、日本人の歴史哲学と謳った理由は何か。特攻隊の存在である。身を挺して祖国に尽くすことは難しい。誰が何と言おうとも、言葉以上に行為に意味がある。私は特攻隊に続きたいと思いながら、本を書き、教育し続けてきた。

現在の日本を彼らはどのように受け取るだろうか。

私は恥ずかしい。何もできていない自身の不甲斐なさを痛感すると同時に、先祖に対して顔向けできない日本の現況を哀しく思う。

なぜ彼らが命を懸けて戦ったのか。もちろん祖国を守るためだ。しかしながら、祖国の存在そのものが腐れ果ててしまったら、彼らの死とはいかなる意味を持つのか。託されているのはやはり我々である。祖国のために散華した特攻隊を犬死と呼ぶのか、尊敬の対象とするのか。我々自身が問いかけられているのである。（中略）

人生を捧げて何事かを成そうとする人々を私は愛する。仮に失敗に終わろうとも、彼らの人生は虚しくなかった。生命をかけて、戦い抜く生き様こそが人間の生き方だと信じるからである。

困難な時代に産まれ、生命を投げ出した青年たちが存在した。彼らの後に続くことこそが、人間らしさであると私は信じる。・・・」

〈［新版］あとがき〉から

『「いい人」の本性』 飛鳥新社
飯山 陽 著 一〇八九円

・・・「いい人」も「いいこと」も一旦は疑ってかかり、批判的に検証する。自分で言うもなんだが、これは決して悪いことではない。批判的検証を経て始めて、課題や問題が見えてくる。その過程を経ずして、現状の打開や問題解決はありえない。よりよい人間関係も、よりよい社会も、よりよい国家も、そうして築かれるものだと私は信じている。だから社会には、私のように意地悪な人間も必要なのだ。「いい人」のフリをしてとんでもない悪を為す者は、日本の政界、財界、学界、メディアだけでなく、世界中にいる。本書は彼らの偽善を暴き、白日のもとに晒す書である。・・・

〈まえがき〉より

『古事記』中巻　（六十一）

神倭伊波礼毘古命（神武天皇）の東征

～久米歌～

気ままにその地よりお進みになりまして、忍坂の大室に御着きになつたとき、尾の生えた土雲といふ多勢の強者が、その岩屋の中で待ち受けて、うなり声をあげてゐました。そこで天つ神の御子（神倭伊波礼毘古命）の御命令で、御馳走を大勢の強者に賜りました。この時、多くの強者に当てて多くの料理人を用意して、一人一人に太刀を持たせ、その料理人たちに教えて、「歌を聞いたら、一斉に斬りつけよ」と仰せになりました。そこで、その土雲を討たうとすることを示した歌は、

忍坂の　大室屋に　人多に　来入り居り　人多に入り居りとも　みつみつし　久米の子が　頭椎に　石椎いもち　撃ちてしやまむ　みつみつし　久米の子らが　頭椎い　石椎いもち　今撃たば宜し

と歌はれて、太刀を抜き一斉に打ち殺してしまはれました。その後、登美毘古（とみびこ）を撃たうとされたとき、歌はれた歌は、

みつみつし　久米の子らが　粟生には　韮一本　そ根がもと　そ根芽つなぎて　撃ちてし止まむ

また歌はれて、

みつみつし　久米の子らが　垣下に　植ゑし　椒　口ひひく　吾は忘れじ　撃ちてしやまむ

またお歌ひになつた歌は、

神風の　伊勢の海の　生石に　這ひもとほろふ　細螺の　い這ひもとほり　撃ちてしやまむ

また兄師木・弟師木を撃たれた時、命の軍勢はしばし疲れ果てました。そこでお歌ひなつた歌は、

盾並めて　伊那佐の山の　木の間よも　い行きまもらひ　戦へば　吾はや飢ぬ　島つ鳥　鵜養が伴　今助け来ね

さて、ここに邇芸速日命が、参上して、天つ神に申しあげるには「天つ神の御子が天降つて来られたと聞きましたので、後を追つて天降つて参りました」と申して、やがて天つ神の子である印の宝物を奉つて、お仕へ申しあげました。そして、邇芸速日命は、登美毘古の妹の登美夜毘売と結婚して産んだ子が宇麻志麻遅命で、この人は物部連・穂積臣・婇臣の祖先であります。さて、このやうにして神倭伊波礼毘古命は、荒ぶる神達を平定し和らげ、服従しない人達を撃退して、畝傍の橿原宮において天下をお治めになりました。

（続く）

畝傍山（うねびやま）

奈良県 橿原神宮

岩国護国神社秋季例祭のご案内

日時・十月十四日（月）　十時より
場所・岩国市今津町六丁目十二の二十三
電話・0827-21-5021

岩国市民の守神である三〇三柱の英霊の御霊に感謝の誠を捧げませう。

岩国護国神社の拝殿前

十月十六日（水）十時より

和木町戦没者慰霊祭が瀬田八幡宮

にて斎行されます。

当日は遺族を始め、県知事の代理、和木町長、教育委員会教育長の方々や地域の氏子等が参列します。

瀬田八幡宮の宮司が斎主を務め、岩国市内の神職が祭員を、伶人は岩国雅楽会が奉仕します。

小瀬川を眼下に臨む景勝地であり、この機会に参詣を切に望む次第です。